



北小っ子だより

甲州市立塩山北小学校
学校だより 第 3号
令和5年 7月21日
(文責：中村 裕司)

1学期終了！明日から夏休み！

72日間の1学期が終了しました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、制限のなかったところに近い活動が実施できたことは、子どもたちの成長にとって大切な経験となったに違いありません。4月の始業式・入学式に始まり、自然教室、水泳の学習と、様々な行事を通して、また、日常の学習を通して様々な学びがあり、それに伴う成長がありました。

最近であれば…

1泊2日で実施した5年生の自然教室には、ナイトハイクのお手伝いで参加しました。泊を伴うということで、共同生活を通しての学びがたくさんあったはずですよ。

7月13日に行われた水泳記録会では、4年ぶりに市内全小学校の6年生が集まったの開催でした。水泳の授業が少なかった時期を過ごしてきた子どもたちですが、今の自分の力の限りを見せてくれました。都合で競技すべてを見ることはできませんでしたが、泳ぐ選手が一生懸命なのはもちろん、それを応援する声を拍手で、会場全体の一体感を感じる記録会でした。もちろん北小の6年生も。後ろ髪をひかれながらも、とても清々しい思いで会場を後にすることができました。

さて、いよいよ明日から夏休み。恒例ではありますが、1学期の評定を終業式で行います。

◎その1。「やさしさ」の評定。『B+』。いい感じです。「人の気持ちを想像できるようになってほしい」これが一番の願いです。この想像力が欠けると、相手に不快な思いをさせてしまいます。「いじめ」の定義からは、たとえ1度であっても「いやだと苦痛を感じたら「いじめ」ととらえる」と解釈できます。そう考えると、「人の気持ちを想像」することで「いじめゼロ」はなかなか難しいかもしれませんが、近づけることは不可能ではないと考えます。1学期の様子からは、「想像する」ことがd系場面が多かったように思うので、『B+』。

◎◇その2。「かしこさ」の評定。『B+』。なかなかです。「正しく考え正しく判断する」ことがかしこさだと考えますが、結構難度が高いことかもしれません。でも、多くの子たちがよく考えていたと思います。失敗しても繰り返さないようにするという様子も見ることができました。失敗から学び、修正していく。そんな様子を見ると、なかなかのものだと判断できます。『B+』。

◎その3。「げんきさ」の評定。『A』でもいい。そのくらい元気な姿を毎日見ることができました。コロナから解放されたけれど、感染症対策もできていたし、何より、休み時間に外で遊べない時に、「え～～っ！」という声が校長室まで聞こえてきて、まさに「元気」でした。かつてのように、コロナの感染者数の発表がありませんが、「第9波」と言う言葉も紙面で目にします。この時期は、コロナに限らず、熱中症など様々な対策をしながら、健康第一の生活を続けてほしいです。

◎追加で、児童会でも取り組んでいる「あいさつ」。これは『B』。最高の『A』を超えた『特A』を付けた子もいれば、『C』になっちゃうような子もいます。これは、今後の課題です。(話しそびれました)

* * * * *

そして、夏休み。8月25日(金)の2学期の始業式に、元気な顔で会えるように、私からは次のような話をします。(恒例ですが・・・)

3つの車のお世話にならないこと。

1つ目は、白い車。暑い中帽子もかぶらず、水分も取らないで遊んでいると、熱中症になって、病院まで白い車にお世話になることになってしまいます。ほかに、思い病気やけがをしてもお世話になってしまいます。白い車のお世話にならないようにすること。

2つ目は、赤い車。花火をしているときに、気を付けないと回りのものが燃えてしまって、赤い車が来てしまいます。川に落ちたり水の事故にあったりしたときにも赤い車のお世話になってしまいます。赤い車のお世話にならないように気を付けること。



3つ目は、白と黒の車。悪い人につかまって連れ去られたりすると、白と黒の車のお世話になってしまいます。もし、スーパーでお金を払わないのにお菓子をもってきてもすぐ白と黒の車が来ます。白と黒の車にお世話にならないように、気を付けたり、悪いことはしないこと。



* * * * *

1か月以上の休みです。夏休みにしかできないことをいっぱい経験して、心と頭と体がひと回り大きくなった姿で2学期を迎えたいと思います。保護者の皆様には子どもたちの成長のサポートをよろしくお願い致します。



「？」⇒「！」⇒「？」⇒「！」 探究の過程はスパイラル！

私たちの時代は1年生から理科を学びました。その中に、色水を作る活動があったように記憶しています。夏休みのある日、アサガオの色水を作って遊んでいた私は、手を洗うためにせっけんを使いました。すると、石鹸の泡が入った赤い色水が青くなってしまいました。「なんと不思議な」との思いと一緒に、アサガオ以外の色水だったら、石鹸でどんな色に変わるだろうかと、いろんな花を取ってきて試すことに熱中したことをなんとなく記憶しています。

夏休みに取り組む自由研究（理科に限らず、ふるさと山梨のようなものも含めて）では、知りたいことがあって、そのことがわかったら「終了」ではなく、「だったら…」 「ほかには…」 と、次の問題が生まれて、研究がどんどん広がっていくようなものになると素晴らしいと思っています。自分なりの「？」から始まり、「本当かな？」、「原因は？」、「どんな特徴がある？」など、どんどん新しい「？」を見つけながら進められたら楽しいと思います。

『生成AI』に関して、夏季休業を前に学年に合わせた指導をしました。持ち帰るChromebookでは使えませんが、ご家庭の端末等では利用できますので、夏休みの課題等で仮に生成AIを利用する場合には、以下の内容を参考にしてください。

長期休業中の課題等について(文章作成に関わるもの)

- ❑ 従前から行われてきたような形で、読書感想文や日記、レポート等を課題として課す場合、外部のコンクールへの応募などを推奨したり、課題として課したりする場合には、次のような留意事項が考えられる。
 - ① AIの利用を想定していないコンクールの作品やレポートなどについて、生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出することは評価基準や応募規約によっては不適切又は不正な行為に当たること、活動を通じた学びが得られず、自分のためにならないこと等について十分に指導する（保護者に対しても、生成AIの不適切な使用が行われないよう周知し理解を得ることが必要）。
 - ② その上で、単にレポートなどの課題を出すのではなく、例えば、自分自身の経験を踏まえた記述になっているか、レポートの前提となる学習活動を踏まえた記述となっているか、事実関係に誤りがないか等、レポートなどを評価する際の視点を予め設定することも考えられる。
 - ③ 仮に提出された課題をその後の学習評価に反映させる場合は、例えば、クラス全体又はグループ単位等での口頭発表の機会を設けるなど、まとめた内容が十分理解され、自分のものになっているか等を確認する活動を設定する等の工夫も考えられる。
- ① 課題研究等の過程で、自らが作成したレポートの素案に足りない観点などを補充するために生成AIを活用させることも考えられる。その際、情報の真偽を確かめること（いわゆるファクトチェック）を求めるとともに、最終的な成果物については、AIとのやりとりの過程を参考資料として添付させることや、引用・参考文献などを明示させることも一案である。
 - ② 自らの作った文章を基に生成AIに修正させたものを「たたき台」として、何度も自分で推敲し、より良い自分らしい文章として整えた過程・結果をワープロソフトの校閲機能を使って提出させることも考えられる。

※ AIを用いた際には、生成AIツールの名称、入力した指示文(プロンプト)や応答、日付などを明記させることが考えられる。

文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」より

